

雉琴神社

- 一 鎮座地 前原市大字飯原二一〇五
- 二 祭神 日本武命(倭建命)
- 三 祭日 九月二十三日
- 四 由 緒(古事記、神社縁起に因る)

日本武命は第十二代景行天皇の第二皇子として生まれ性勇猛果敢父天皇に命ぜられ東方十二カ国の荒ぶる神たち従わざる者たちを討たんとして、相模の国に至り国造にだまされて野原に入り火をかけられ焼打ちにあわれ給うが火打石草薙劔により逆火をつけ給い辛うじて難を逃れ給う(火焼、やけどの神)

昔、神功皇后高祖より御坂(三坂)を経て雷山に登り給い層々岐岳にて天神地祇を祀り戦勝を祈り給う後山をさがり(嵯峨里)給い此所に宿陣し給う夜夢枕に日本武命がたれ賊徒討伐の法を教えられたという雉子の鳴く声を琴の音に聞きて目ざめられ帰還の後日本武命を祀り雉琴神社と崇め奉り此所を雉琴と名付けられた

(一は『鎮守乃杜』二〜四は雉琴神社境内『雉琴神社由緒説明盤』より)

五 『福岡県地理全誌』

村社 八幡宮 川付村にあり

雉子琴神社 本殿 横八尺入二丈四尺、拜殿 一間四面、石鳥居一基

社地 横七間入十八間

本村の北三町、雉子琴森に在り。従前一村の産神なり。祭神、日本武尊。祭日九月十四日。社傳に、神功皇后三韓を征し給いし時、此所に息せられけるに、折節、雉子の鳴音、琴の音の如く聞こえける。日本武尊、雉子と現れ御神託ありしなりとて、御帰朝の後、此所に尊の神霊を祭り、

雉子琴神社と稱せしめ給ひしと云。長野村庄崎氏藏、寶永二(1705)年社帳には、當社及び天降神社、乙宮共に仁徳天皇十年鎮座と在り。

末社一、筒宮嵯峨里

小社六所

天降神社、鶴坂。金刀毘羅神社、嵯峨里。菅原神社、中川。荒神社、石川。七郎神社、筒原・吉備公を祭れり。乙宮、鶴坂。雷山四護法の一つなり。

六 『糸島郡誌』

村社雉琴神社

幣帛料供進指定社。大字飯原字日明にあり。祭神日本武命。祭日九月二十三日。往昔神功皇后三韓を征し給はんとて此所に來まし戦勝を祈り給ふ。時に雉子の鳴く声を琴の音に聞きなして覺め給ふと。其御夢に日本武尊現れて賊徒誅伐の事共を示し給ふと、故に此所を雉琴と號し、日本武尊を祭りて雉琴神社と崇む。昔神命を祈請するに琴を弾せしめ給ふは記紀仲哀天皇記其他に詳なり。此の谷を琴度の谷と云ひ又琴川と名稱ける皆是より起れり。前は層々岐野旗振山を望み、東早良郡額田驛(今の野方)に通じ、西深江驛に連る。眞に舊地にして附近石斧埴輪其他彌生式土器多數発掘せらる。琴雉神社は明治卅九(1906)年神饌幣帛料の供進を指定せらる。例祭九月廿五日。

境内神社 天降神社、祭神瓊々杵尊。祭日九月二十三日

上流瀑布あり不動明王を祭る。其上神籠石石門あり琴平神社を祭る。昔は上宮中宮下宮と名稱けしものなるべしと云ふ説あり。

金刀比羅神社

大字飯原旗振山に在り。神籠石水門を神域とす。祭神崇徳天皇。延享二(1745)年怡土三個寺記録に筒城権現神功皇后課法持聖賀令祈敵国降伏の地とあり。雉琴神社の上宮なるべし。筒城神社又七郎権現とも稱す。

筑陽記に云ふ宗像許斐権現眷属神之内上七郎殿一所とあり、此神社なり。

天降神社

大字飯原字鶴ヶ坂にあり。祭神瓊々杵尊。祭日七月一日。

御鞍掛之岩

飯原村雉琴神社境内にあり。神功皇后三韓征伐の砌皇后の御鞍を置かせられし石なりと云ひ傳ふ。昔日明に在りしを琴川の水の中を溯航して今の處に運ぶ。

袁宇祁の森

大字飯原日明にあり。俗に應神天皇の産毛を納め奉りし地なりと言ひ傳ふ。昔宇美人幡宮の神幸所なりしが今雉琴神社の飛地境内となれり。又袁宇祁の森と云ふは武内大臣が御詔を受けし處の意なりと云ふ。

七 『福岡県神社誌』

村社 雉琴神社 糸島郡長糸村大字飯原字日明

祭神 日本武尊

由 緒 當社者往古神功皇后三韓征伐之時此の所に息はれたる節雉子の鳴くを琴の音の様被爲聞日本武尊雉手と現はれ給候とて歸朝の後此所に日本武尊を祭らしめ神號を雉子琴神社と申傳ふ、明治十四(1881)年許可飯原村氏神とす、明治三十三(1900)年六月二十九日村社に昇格許可。

例祭日 陰曆九月二十三日

主なる建造物 本殿、拜殿、社務所 参籠所

主なる寶物 祭神御尊影一軸、神刀三口

境内坪數 三百七十二坪

氏子區域及戸數 大字飯原 九十戸

境内神社 天降神社(瓊々杵命)

稻荷神社(倉稻魂命)
伊弉册社(伊弉册神)

八 『怡土志摩地理全誌』

雉子琴(きじこ)神社

日明(ひあけ)にある飯原村の産神で、祭神日本武尊。祭日九月十四日。郡内で唯一の日本武尊を祀る神社である。神功皇后が三韓出兵の途、ここで休息していると、キジの鳴く声が琴を奏するように聞こえてきた。これは日本武尊がキジに姿を変えて激励された神託であると勇氣百倍された。帰国後、この地に尊の神靈を祀り雉子琴神社と命名されたという伝承のある神社。

「長野庄崎文書」の宝永二(一七〇五)年神社帳には、本社も天降神社も仁徳天皇一〇(三三二)年の鎮座と書いてあるが……。境内に松田五六郎(中原出羽守)の顕彰碑がある。

日明には、応神天皇の産毛を奉ったとか、武内大臣が詔を受けた所などといわれる「オウケ」の森がある。

九 『鎮守乃社』

雉琴神社

祭神 日本武命

例祭日 九月中日

由 緒 本殿、幣殿、拜殿、神輿庫、社務所備わる。神功皇后三韓御渡航を志給い香椎、屋須、筑紫、飯盛を経てこの地に一泊し給う。夢に日本武命現れ給い賊徒誅伐の方法を示し給い雉子の鳴く声を琴の音に聞き目ざめ給う。この地を雉琴と名付けられ、神社を建てて日本武命を祀り給う。昔神の教えを乞う時に琴を弾く等は、記紀仲哀天皇記その他に

も詳しく出ている。

此の谷を琴度の谷といい又琴川と名付けられる。前方には曾々木野旗振山を望み東は早良へ、西は深江駅に至る。

上流に瀑布三段あり、不動明王を祀りその上に神籠石、水門がある。日本武命を祀る糸島地区唯一の神社である。

金刀比羅神社、祭神崇徳天皇神籠石水門を神域とする。又七郎権現、筒城神社とも称する。神殿のいたみ甚だしき為平成十二(2001)年本社に合祀する。

十 『脊振山系の山岳霊場遺跡——脊振山・雷山・怡土七ヶ寺——』

『宇佐託宣集』と脊振山信仰(吉田扶希子・西南学院大学)に次の一文がある。

「神籠石」の名は、福岡県久留米市高良山の神籠石に始まる。その築造目的には諸説あつたが、現在は山城説ではぼ確定している。雷山の場合、高良山にみられるような馬蹄石の類はないが、北水門の西詰にかつての小祠跡と鳥居があり、筒城(つぎ)神社だという。住吉大神と七郎権現とが合祀されていた。山麓の糸島市飯原(いばる)の氏子たちが祭っていたもので、平成十二年(2000)九月の台風のため、社殿が倒壊し、同じ飯原の雉琴神社に合祀された。川の名である「筒川」のツツ、北水門のある筒原のツツは、ツツノヲノミコト、すなわちこの小祠に祭られていた住吉大神と大きくかかわっているものと考えられる。

脊振山地雷山系の雷山千如寺の縁起で、雷山の神の水火雷電神は一夜雷電霹靂する中、この千如寺を開山建立したと伝えている。雷電霹靂して神威を顕現し、雷山を開いた神は、脊振山の神で龍馬だといふのかもしれない。この地方の雷神信仰の祖型は、脊振山に原型が遺っているかのように推察されるのである。

いま一つは、現人神社の住吉明神であろうと推測する。「裂田溝」説話の類話として、滋賀県野洲市菅原神社(永原天神)・同撰社手安神社の「伎王井」の伝説がある。平清盛の全盛期、当時の野洲郡永原荘は水が不足していた。白拍子の伎王(ママ)は、用水路の開削を直訴し許されて着工するが、難工事でなかなか進まない。困っていると、一人の童子が現れて杖を執つて導き、これに従つて開削を進めたところ、一日一夜で完成したと伝えている。この童子は菅原神社(永原天神)の撰社手安神社の御祭神の埴安彦である。水路の守り神であり、田の神、土の神である。

山中耕作氏によると、多くの場合、「○○天神」と呼称させる天満宮には、その前身かと思われる神が祭られ、しばしばそれは天神(てんしん)すなわち天津神である。天満宮の御神徳はもちろん学問の神であるが、次に多い神徳は祈雨・止雨の神で、雷神信仰としている。一般農民には天神さまは田の神として非常に崇拜されたのだと述べている。現人神社の場合、祭神は住吉明神でありながら、水路の守り神である。田の神、土の神の信仰が強くうかがわれるようである。現実の現人神社にも、田の神、水の神、土の神的神格が強い。

ちなみに住吉三神の表・中・底の三段についていえば、石上堅氏の「ツツは、ものがある中にこもっている形状」で、住吉明神の場合、「水中の底・中・表にこもつて、神としての呪力を新しく発動する靈魂で、蛇・雷の呪力をも意味する」という見解によりたいと思つている。そこで「迹驚岡」の大磐石を蹴破つて「裂田溝」の功業をなさしめた神は、脊振山で示現し、「迹驚岡」で神威を顕現し、いま現人神社に祭る住吉明神だったのではないかと推測する。

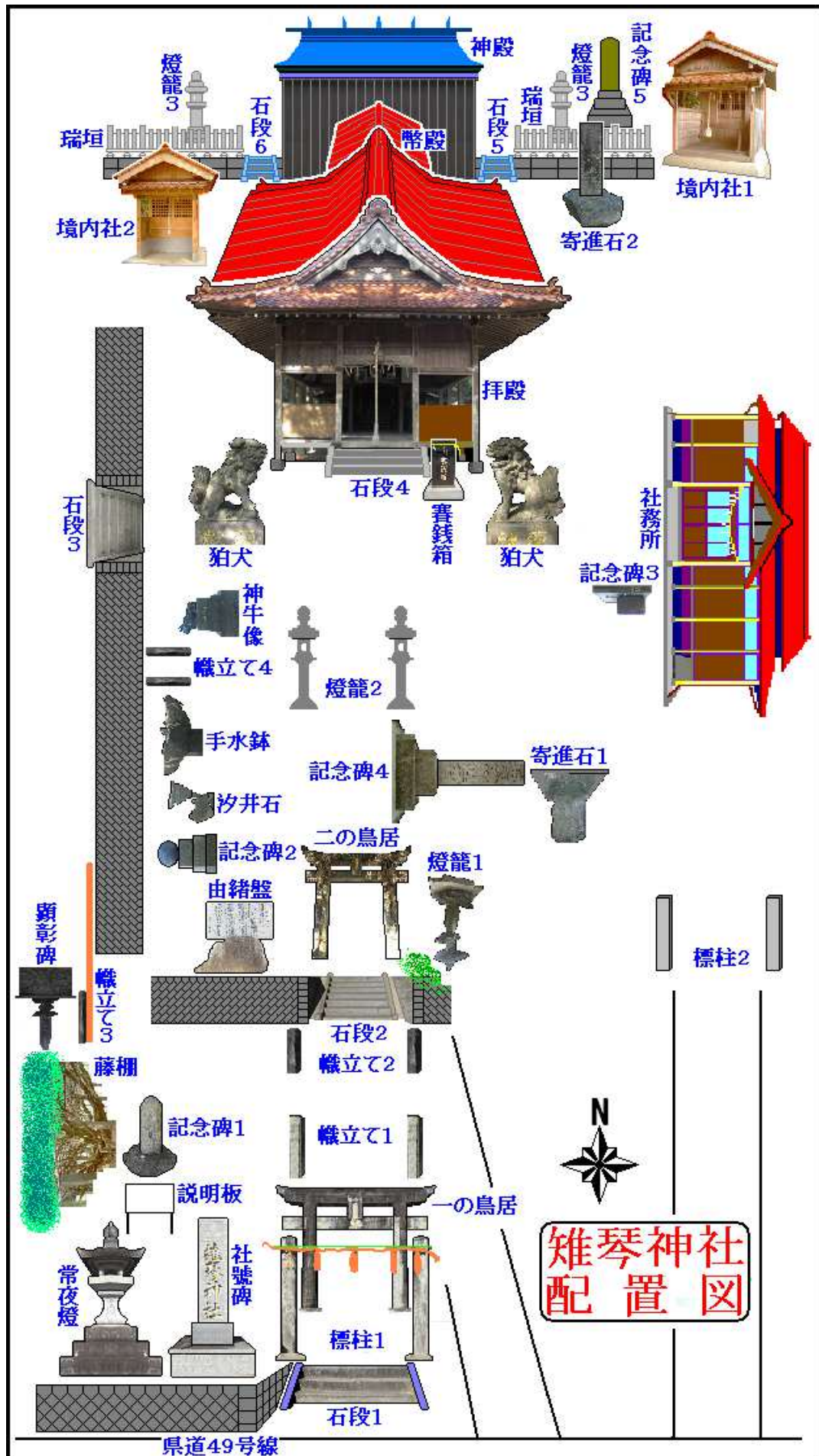
以上、脊振山の西側と官道、県道大野城二丈線の沿線の中世以後の住吉信仰の基層に、「鎮懐石」「裂田溝」の説話に基づく古い信仰がまずあつたことを述べてきたが、これはおそらく古代、津守氏が担つてきた伝

承ではあるまいかと思われる。摂津住吉大社に代々神主として奉仕した津守氏で、武内宿禰を始祖とする。

古代の詳細は不明ながら、神功皇后信仰の極めて重要な西の聖地であることに改めて思い至ることができた。この雷山を含む大野城二丈線を軸とした住吉明神、神功皇后の伝承地域は、現在の福岡市南郊から西は福岡市の西部から糸島市に及んでおり、脊振山東門寺が主張していた四至の地域に、ほぼすつぽりと収まってしまふ。雷山千如寺の法持聖たちの活動地域は、脊振山東門寺の布教活動地域を引き継いでいたのかもしれない。



日明の「御旅所」が、『怡土志摩地理全誌』に詳しく記載されている、宇美八幡宮の神幸行事の御旅所であった袁宇祁の森である。
 「九月一九日、表浮宮（おうけのみや 日明にある）に神幸があり、翌二〇日、深江子負ヶ原に行き、二四日、表浮宮へ、二五日本社へ帰った
 そうである。」



石段 1

石段1 幅 二m七七cm
段数 三段



一の鳥居

一の鳥居 高さ 四m四二cm

鳥居懸額 「雉琴神社」

右柱正面 「八荒摺服」

裏面 「飯原區渡米有志者建之」

左柱正面 「四海寧康」

裏面 「明治四十四(1911)年十一月吉日

石工 徳田 鶴吉

吉富 秀季
栗崎浦次郎



標柱 1

標柱1 一對

高さ 三m二四cm

右柱正面 文字不明

裏面 「大正參(1914)

年晚秋建焉」

左柱正面 文字不明

(寄進者は17頁参照)

社號碑

社號碑 高さ 二m七八cm

碑正面 「三つ柏紋 雉琴神社」

碑裏面 「昭和六十三(1988)年十月吉日

宮司 武内 公文 謹書

寄進者 池藪 泰輔

全 波多江辰美

石工 林田 清吉



常夜燈

常夜燈 高さ 四m一〇cm

竿部正面 「常夜燈」

裏面 「氏神 ■ ■

五十年記念

昭和五年五月吉日」

台石裏面 「波多江利八郎」

基台裏面 「世話人は17頁参照

石工 吉富喜太郎

大塚伊三郎

昭和五年は西曆 1930年



幟立て1

幟立て1 一对 高さ 一m七〇cm
 右柱正面 「奉獻」
 裏面 「日新會員中」
 左柱正面 「奉獻」
 裏面 「明治四十参
 (1910)年九月」



記念碑1

記念碑1 (砲弾型)
 高さ 一m四七cm
 砲弾上部
 「爲居寄附連名年長順
 寄進者は17頁参照」



幟立て2

幟立て2 一对 高さ 九六cm
 右柱正面 「奉寄進」
 左柱正面 「明治十五 (1882)年
 八月建之
 西 善二郎
 西原 三郎」



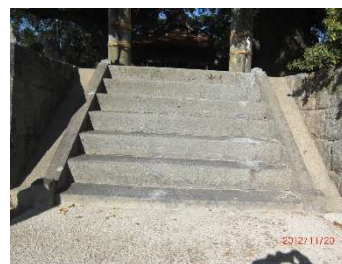
幟立て3

幟立て3 一本 高さ 一m二六cm
 柱正面 「嵯峨里氏子中」
 裏面 「奉」



石段2

石段2 幅 二m三九cm
 段数 七段



由緒盤

由緒盤 高さ 一m三二cm
 正面 文面は17頁参照
 裏面 「平成二 (1990)年十一月
 吉日建之
 宮司 武内 公文 謹書
 奉納 兼松 節
 石工 山本 芳雄」



二の鳥居

二の鳥居 高さ 三m〇三cm

鳥居懸額 「雉琴宮」

右柱正面 「寶曆二(1753) 癸酉六月吉祥日」

左柱正面 「奉建立爲居一基 飯原郷 波多江清兵衛種直 氏子中」



燈籠 1

燈籠1 一基

高さ 二m九五cm

火口以外は自然石で組み立てられている

記念碑 2・3

記念碑2 高さ 一m二〇cm

玉径 四〇cm

文字無し

記念碑3 (社務所前) 高さ 三三二cm

碑正面 「三つ柏紋」

碑裏面 「奉納 大原 一弘 宮司 武内 公文 石工 山本 芳雄 平成七年五月吉日」

記念碑2・3で一セットと判断した

記念碑 (村社算格記念) 4

記念碑4 高さ 四m〇六cm

正面「雉琴神社碑」

左面「明治世二(1900)年十月

雲閣道人義比古敬寫

社掌 空閑 廣治

氏子 中

裏面・右面の碑文は17頁参照

右面「福岡 海妻甘藏撰」

台石裏面「石工 堀田 治郎 内山熊太郎」



雲閣道人は対馬出身の宗像義彦と云う書道家で、碑を揮毫された方である。海妻甘藏は舊福岡藩士の国学者で、教育関係に寄与された。共に幕末から明治に活躍された方々である。



寄進石 1

寄進石 1 高さ 一m五六cm

正面「昇格碑寄附

明治三十三(1900)年

十月建之

(寄附者は18頁参照)



標柱 2

標柱 2 (東裏門入口)

高さ 二m七三cm

右柱正面「奉」

裏面「池園勇二郎」

左柱正面「献」

裏面「大正五(1916)年

二月吉日」



汐井台

汐井台 高さ

文字不明



手水鉢と手拭掛

手水鉢 高さ 八二cm

文字不明

手拭掛 高さ



燈籠 2

燈籠 2 一對

高さ 一m六五cm

文字不明



幟立て4

幟立て4 (境内西側生垣沿い)

一对 高さ 一m〇三cm

北側柱正面 「奉寄進」

裏面 「世話人」

四名文字不明

南側柱正面 「明治二十七年
三月吉辰」

裏面 「石田組産子」

明治二十七年は西暦1894年

神牛像

神牛像 高さ 一m二三cm

神牛像 長さ 八〇cm

幅 三六cm

台石正面 「奉納」

右面 「平成二十(2008)年
十二月吉日」

(寄進者は18頁参照)

石段3

石段3 (境内西入口)

幅 三m七九cm

段数 八段



狛犬

狛犬 高さ 一m六一cm

左右台石正面 「奉獻」

昨形台石右面 「明治二十九(1896)年十二月」

(寄進者は當区青年18頁参照)

賽銭箱

賽銭箱 高さ 一m〇九cm

箱正面 「賽銭箱」

右面 「平成十六(2004)年」

(寄進者は18頁参照)



石段 4

石段 4 (拝殿前)
幅 二m七七cm
段数 三段

寄進石 2

寄進石 2 高さ 一m九二cm
碑正面 「籠所寄附人名」
裏面 「大正六(1917)年
五月建築」
(寄進者は19頁参照)

右瑞垣と石段 5

右瑞垣 長さ 六m七六cm
文字無し
石段 5 幅 一m一六cm
段数 三段



左瑞垣と石段 6

左瑞垣 長さ 七m〇〇cm
文字無し
石段 6 幅 一m一七cm
段数 三段

燈籠 3



燈籠 3 一対 右燈籠高さ 一m五六cm
左燈籠高さ 一m四二cm (宝珠部破損か)
右燈籠竿部 「**政**十**天**」 怡土郡飯原村
雉琴大明神 御寶 **■**
六月吉辰
かろうじて判読した文字
文政年間(1818~30)の奉納か
(神殿左側燈籠竿部の文字は不明)



記念碑 5

記念碑 5 高さ

碑正面「凱旋紀念」

漢詩 出征軍人」

碑右面「明治三十九年

十二月■■■ 世話人」

台石裏面「石工 福岡西新町

古賀 松次」



碑正面・碑右面碑文は19頁参照
碑裏面と碑左面にも文字があるが、
磨滅が酷く判読出来ない



社務所

横 一一m〇四 cm

入 八m九二 cm

社務所

トイレ

トイレ

横 一m九二 cm

入 二m二六 cm



境内社 1

境内社 1

横 二m五五 cm

入 三m〇八 cm

社額 「荒神社」

由緒書きは19頁参照



境内社 2

境内社 2

横 一m九三 cm

入 二m二六 cm

寄進者20頁参照

本殿

神殿

横 六m一六 cm

入 六m六八 cm

幣殿

横 四m〇〇 cm

入 四m六二 cm

拜殿

横 六m一六 cm

入 六m一五 cm



「弟橘藤」由来



由来説明は20頁参照

顕彰碑

顕彰碑 高さ 五m二〇cm

碑正面「贈従五位

松田五六郎翁

台石正面「発起 日新會

石工 吉富喜太郎

大塚伊五郎」



碑文は20頁参照

藤棚



御旅所(神幸所) (袁宇祁の森)

神橋と幟立て1

神橋

右奥欄干柱「日明橋(ひあけはし) 昭和六十一年三月完成

左奥欄干柱「琴水川(ことみずがわ)」

幟立て1 一对 高さ 一m八〇cm

右柱正面「三つ柏紋 奉

裏面「日明産子中」

左柱正面「三つ柏紋 獻

裏面「大正三(1914)年四月拾二」

神橋



幟立て2

幟立て2 一对 高さ 六〇cm

道路左側に並んで建ててある

文字無し

「袁宇祁の森」は、宇美八幡宮が鎮懐石八幡宮へ御神幸の際、行き帰りに立ち寄られた御旅所であった。



石段1
幅 一m八三cm
段数 十三段

石段 1



標柱

標柱 高さ 二m七〇cm
右柱正面 「三つ柏紋 威稜輝千里」
右面 「大正八(1919)年九月吉日」
左柱正面 「三つ柏紋 徳澤溢四海」
左面 「古川亀太郎」

石段2 (鳥居前)
幅 一m五二cm
段数 二段

石段 2



鳥居

鳥居 高さ 三m五〇cm
鳥居懸額 「雉琴神社」
右柱裏面 「寄附 井手初太郎」
石工 大塚伊三郎
左柱裏面 「大正九(1920)年八月吉辰建立」



行宮

上石 一m〇五cm四方
 高さ 五八cm
 台石正面
 「敬獻」
 台石右面
 「大正四(1915)年十一月七日」
 台石左面
 「御即位記念」
 「日明彦子中」



玉垣

玉垣
 正面石垣上左右に
 各七本ずつの柱痕
 右柱列 四本
 奥柱列 七本
 左柱列 四本



筒城神社跡 (雷山神籠石北水門上)

鳥居

鳥居 高さ 二m九五cm
 右柱裏面 「■施 重松 伊藏 重松源太郎」
 左柱裏面 「皇紀二千五百九十三年■建」
 「昭和八(1933)年」
 重松度次郎 重松 道久



記念碑 1

記念碑1 (神社本殿跡に建立) 高さ 一m四五cm
 碑正面 「筒城神社跡」
 碑裏面 「平成十二年九月十三日 飯原氏子一同」
 現在、筒城神社は雉琴神社に合祀されている

史跡碑(神籠石)

史跡碑(旧筒城神社境内に建立) 高さ 二m二〇cm

碑正面

「雷山神籠石」

碑左面

「史蹟名勝天然記念物保存法に依り

昭和七年三月文部省指

定」

碑右面

「昭和八(1933)年五月建設」



記念碑2

記念碑2(旧筒城神社境内に建立)

碑正面

「是より南七五〇米の所にも

亦神籠石在り。」

碑裏面

「長糸村史跡保存會」

碑左面

「昭和八(1933)年六月建之」

高さ 一m一〇cm



「雷山神籠石」説明板

説明文は21頁参照



⇒ 列石



北水門

日明神社

木鳥居

木鳥居 高さ 二m三〇cm

幟立て



幟立て 高さ 一m二六cm

右柱正面「奉寄進」

左柱正面「明治十九年戌

三月吉辰」

裏面「當村日明

古川 勝治」



本殿

本殿

横 二m六〇cm
入 三m四〇cm



祭神

大石1(前) 高さ 一m〇〇cm 幅 一m九〇cm

大石2(後) 高さ 一m八〇cm 幅 一m九〇cm

大石1は、神功皇后が乗馬の鞍を置かれた石と云う。

祭神(鞍掛石)



寄進札

寄進札

「日明様新築落成

平成十五年二月吉日

大工 山下工務店

代表 山下 和男」

寄進者は21頁参照



標柱1寄進者(5頁)

左柱裏面 「井手幸四郎

重松 徳藏

兼松般石根」

常夜燈世話人(5頁)

基台裏面 「世話人 年順

古川秀太郎 池園 源藏

中原和三郎 波多江藤三郎」



記念碑1(砲弾型)(6頁)

「上段 中原清三郎 西 辰次郎 古川藤次郎

青木宇之吉 波多江藤次郎 全 百十郎 池園 常吉

重松竹次郎 古川梅太郎 井手 爲吉 古川 又助

波多江宗十 内野音二郎 青木友太郎 中原卯之吉

下段 波多江末松 波多江■四郎 中原治一郎 藤瀬 藤太

古川 仙藏 西 又三郎 藤瀬卯三郎 西 武■

牙津呂源藏 青木■五郎 大塚小八郎 有富藤五郎

重松 藤平 波多江宗四郎 川上和三良 川上松三郎」



にあわれ給うが火打石草薙劔により逆火をつけ給い辛うじて難を逃れ給う(火焼、やけどの神)
昔、神功皇后高祖より御坂(三坂)を経て雷山に登り給い層々岐岳にて天神地祇を祀り戦勝を祈り給う後山をさがり(嵯峨里)給い此所に宿陣し給う夜夢枕に日本武命がたたれ賊徒討伐の法を教えられたという雉子の鳴く声を琴の音に聞きて目ざめられ帰還の後日本武命を祀り雉琴神社と崇め奉り此所を雉琴と名付けられた

(古事記、神社縁起に因る)」

記念碑(神社昇格記念) 4(7頁) 碑文

記念碑裏面



雉琴神社由緒盤(6頁)

「雉琴神社

祭神 日本武命(倭建命)

祭日 九月二十三日
日本武命は第十二代景行天皇の第二皇子として生まれ性勇猛果敢父天皇に命ぜられ東方十二万国の荒ぶる神たち従わざる者たちを討たんとして、相模の国に至り国造にたまされて野原に入り火をかけられ焼打ち

記念碑左面

「已明治十四年願徒氏神之名民情猶不滿再上申願為村格明治卅三年六月廿九日福岡縣知事深野一三徳昇格産子之喜可亦知煩者■區共議■力定碑欽表社爾之■■余文余祝曰巍々祈祠豈止村社乎自今隆盛他時必加殊榮嗚呼産子謹勿■■意

福岡 海妻 甘藏 撰

寄進石1「昇格碑寄附」連名(8頁)

「一金貳拾円	兼松般石根	井手初太郎	拾円	重松満太郎	池園勇三郎	古川利七郎	重松 徳藏	重松初太郎	八円	波多江富次郎	大原森太郎	青柳權太郎	六円	古川龜太郎	古川吉太郎	有富 兵七	四円	福岡市名嶋町	小川 鉄磨	二円	長野邑	友岡 ヤエ
一金 五円	波多江宗次郎	井手鶴太郎	波多江利八郎	波多江■治	古川 儀平	筒井 藤内	重松 利作	波多江藤七	内堅 久市	一金 四円	吉川末太郎	青木 清助	西 元太郎	西 茂八	西 兵七	波多江豊松	大町 如吉	井手辰次郎	重松 傳藏	藤瀬 如平	源次郎	
一金 二円五十銭	井手 重藏	池園 種吉	池園 榮吉	西 竹五郎	波多江百太郎	波多江孫平	川上市三郎	有富藤太郎	一金 二円	中原 仁吉	重松 鶴吉	波多江清五郎	古川 岩吉	重松久米吉	西 龜太郎	重松竹次郎	青木宇之吉	中鶴 又七	西 辰次郎	青柳鉄次郎	廣川 佐吉	
全 波多江庄平	全 青木実次郎	全 武内 法順	全 小林常太郎	全 古川 忠藏	全 重松森太郎	全 古川熊太郎	全 井手 重吉	全 大塚八十吉	全 大塚 彌吉	全 池園 鶴吉	全 大塚 梅吉	全 相 久 寺	全 中原松太郎	全 重松 利平	全 重松 龜吉	全 青柳 寅吉						



神牛寄進者(9頁)

台石右面 「波多江嘉和

重松 茂美

山本 芳雄」



狛犬寄進者(9頁)

基台左面 「當区青年

波多江十郎

吉川梅太郎

青木清太郎

大塚八十松

波多江吉太郎

内野音次郎」

基台裏面

「青木友次郎

大塚九八郎

柴田 鹿吉

青木條四郎

川上竹次郎

無津呂源内

藤瀬 藤太

中原次一郎

池園 源造

波多江宇市

青木安太郎

青柳 吉造

中原富士吉」

基台右面

「藤瀬■三郎

波多江磯平

全 常太郎

大塚 弥作

西 武市

无津呂源造

西 次良助

吉富喜太郎」



賽銭箱寄進者(9頁)

箱右面 「平成十三年三役

池園 英明

立石 武

波多江豪彦



平成十五年三役

波多江宗典

青柳 正義

波多江義孝

寄進石2寄進者(10頁)

正面 「籠所寄附人名」

「年長順	金 十八円	波多江宇一	金 十円	西 倉吉
金 壹百円	井手初太郎	全 十七円	古川 忠藏	全 十円
全 七十円	兼松殿石根	全 十六円	重松 傳藏	全 十円
全 五十五円	重松 繁吾	全 十五円	古川吉太郎	全 十四円五匁
全 三十円	古川 壽太	全 十五円	古川龜太郎	全 八円
全 二十五円	池園勇二郎	全 十二円	波多江藤七	全 八円
全 二十円	重松倉四郎	全 十二円	波多江富次郎	全 八円
全 二十円	青柳権太郎	全 十一円	波多江次郎	全 七円五匁
全 二十円	大原森太郎	全 十四円三匁	筒井 正男	全 十四円五匁
全 十八円	波多江利八郎	全 十円	波多江豊松	全 七円五匁
全 十八円	古川秀太郎	全 十円	井手鶴太郎	全 七円
全 十八円	有富門太郎	全 十円	古川末太郎	全 七円

裏面

「 常務建設委員 池園勇二郎

年長順 井手初太郎

大正六(1917)年 中原松太郎

五月建築 有富門次郎

波多江宇一

重松 利行

世話人年長順 古川熊次郎



記念碑5寄進者(11頁)

碑正面「

波多江豊松 古川秀太郎
西 元太郎 無津呂源助
重松 伊藏 重松 繁吉
井手鶴太郎 波多江次郎

出征軍人

凱 日露之役 ■古文 ■井上安八郎 西 治郎 ■

旋 抱野行向 ■敵兵 無津呂源内 有富

紀 海 ■池園 源藏 西 武三郎

念 烈風 ■波多江 ■平 重松

大勲須 ■皇 ■威靈 池園 源六 波多江

北 ■茂八 ■ 中原和二郎 波多江

碑右面「 上二段に 明治三十九年十一月 ■ 井手初太郎

六名づつ 波多江 ■次

計十二名 波多江富次郎

の名あり 重松篇太郎

境内社1(荒神社) 由緒板(11頁)

「荒神社 荒神所調 三宝荒神にして神仏習

合時代に仏法僧の三宝を護る荒神なり。荒

神は不浄を忌むが故に民家にて最も淨き所

即ち竈を棲む所とする。三宝つまり三面あ

り。何時の頃の祭祀かは不明なれ共明治の

初め頃飯原村石田より当社境内に移し奉斎

すとあり。全時に天満宮(菅原道真公)を移し合祀す。波多江伝



氏（福岡市在住）の奉養により荒廃せる社殿を新築せり。

総工費七拾万円也

寄附札 「二金 五拾万円 波多江 伝」

境内社2寄進者(11頁)

「末社建築奉納者」

- 氏子会長 重松 偉走
 - 総代代表 波多江 正人
 - 宮方代表 無津呂 伸也
 - 宮 方 青柳 正幸
 - 宮 方 嘉村 正人
 - 自治会副会長 波多江 勝
 - 自治会会計 西 茂治
 - 囃子 西 佳明
 - 石 工 山本 芳雄
 - 宮 司 武内 公文
- 平成十九年七月吉日



藤樹の由来説明版(12頁)

「弟 橋 藤」 由来

当神社は仲哀天皇の父君、日本武命を祀り、神功皇后の創祀と伝える。

古来里人の崇敬深く昭和天皇御即位御大典の記念として藤樹を植え、身を挺して海神に殉じられた愛妃弟橘姫を偲び花藤の香りに寄せて、お二人の純愛を永久に語り継ごうと里人無津呂源内、池園源蔵、筒井兵作の三人は、八方手を盡して相応しい藤樹を探



す事三年、やつと樹齢百年に近い大樹を求めて昭和四年奉納、植樹し「弟橘の藤」と命名し今に至る。以後、当社代々の氏子会三役、氏子総代、宮方の計十名は、七月、九月、二月に手入れ奉仕を毎年欠かさず続け、当社の象徴として愛されている。尚、当神社は火傷、火焼の神であり南五百米に、あせもに効く「しようずの湯」冷泉が湧き、それより東三百米に「イボ取り地蔵」がある。更に南東「不動滝」の落下する水中の岸壁に彫られしは、不動明王の御神体なりと云い、その上の史跡、神籠石の水門の守神「金刀比羅神社」(筒城神社、また、七郎権現とも称す)は、白癬の神である。故にこの地一帯は、花藤の匂うが如き美肌を願う人々が訪づれている。

平成六年五月吉日

氏子会長 有富 亨

顕彰碑 (12頁)

「松田五六郎翁」顕彰碑裏面碑文

「君舊福岡藩士通稱松田五六郎諱安定本姓松尾氏出為雉琴宮継嗣稱中原出羽守為人慷慨有氣■夙抱勤皇之志矣元治元年三月与吉田太郎相謀殺落老臣牧市内奔長州入奇兵隊■未臻七月之變終戰敗歸天王山營與真木保臣等屠腹而死時年三十八明治廿五年十一月以特旨贈從五位今茲日新會發起欲建碑以傳テ不朽予贊其美舉屢録梗概焉

大正十年九月 西川鍔五郎撰書



神籠石説明板 (15頁)

国指定史跡 雷山神籠石 (らいざんじょういし)

(昭和七年三月二十五日指定)

糸島市雷山・飯原(いいはる)

雷山神籠石は糸島市雷山・飯原間の山中に築かれた西三〇〇m、南北七〇〇mほどの城域をもつ古代山城す。雷山神籠石の主な遺構として、谷の南北に築かれた

門と、それから東西に派生する列石群が挙げられます。他地域の神籠石の発掘調査から、本来は列石上には幾層もつき固められた土塁が存在したと推定されますが、城内の構造については不明な点が多く、今後の謎解きに期待がかかります。

北部九州所在の神籠石は、他におつぼ山(武雄市)・帯隈山(おびくまやま 佐賀市)・高良山(こうらさん 久留米市)・女山(おんなやま みやま市)・御所ヶ谷(ごしよがたに 行橋市)・みやこ町)・杷木(はき 朝倉市)・鹿毛馬(かげのうま 飯塚市)・唐原(とうばる 上毛町)などが有ります。築城の時期は諸説がありますが、対朝鮮半島政策の一環として、朝倉宮もしくは大宰府を防衛する目的で七世紀代に築城されたとする説が有力です。

糸島地方を代表する貴重な文化財です。みんなで大切に保存しましょう。



東で水

糸島市教育委員会

日明神社新築寄附者 (16頁)

「日明様新築落成

平成十五年三月吉日

(名簿割愛)

大工 山下工務店

代表 山下 和男



参考文献と石造物奉納の記録から見た雉琴神社の歴史（1）

西 暦	和 暦	奉 納 品 出 来 事 祭 神 等	ベースは角川日本地名大辞典 赤文字は石造物を挿入 文献記録を挿入
雷山北西麓に位置する。地内には飯原古墳、日明古墳などのほか、旗撮山城跡、製陶所跡などがある。浄土真宗本願寺派金照寺は、文安 2（1445）年円信の開基という（糸島郡誌）。			
〔近世〕 飯原村		江戸期～明治 22 年の村名。筑前国怡土郡のうち。はじめ豊臣氏蔵入地。	
1599	慶長 4 年	唐津藩領	
1616	元和 2 年	唐津領主寺沢広高が検地を実施	
1648	慶安元年	幕府領	
1649	慶安 2 年	再び唐津藩領	
1678	延宝 6 年	再び幕府領	
1681~ 1690	天和元年～ 元禄 3 年	幕府領時代の貢租は、平均取米 538 石余（10 か年撫免 3 ツ 4 分 3 厘）、ほかに鴨運上銀 36 匁、鳩運上銀 2 匁余、天米 23 石余などがあつた（川上家文書）。	
1691	元禄 4 年	家数 111（本百姓 81・水呑 30）、人数 574（男 317・女 257）、馬 18・牛 56（川上家文書）。	
1701	元禄 14 年	「元禄国絵図」の村高は 1,567 石余	
1705	宝永 2 年	長野村庄崎氏蔵「社帳」に「當社は仁徳天皇 10 年に鎮座」とある。	
1717	享保 2 年	中津藩領。中津藩領時代は神在組（安政 6【1859】年から長野組）に属す。 「郷村高帳」の村高は 1,567 石余	
1745	延享 2 年	筒城権現神功皇后課法持聖賀令祈敵国降伏の地とある（『怡土三個寺記録』）	
1753	宝暦 3 年 6 月	二の鳥居	飯原郷 波多江清兵衛種直 氏子中
1818~ 1830	文政年間	燈籠 3	
1834	天保 5 年	「天保郷帳」の村高は 1,567 石余	
1840	天保 11 年	2 町以上の農民は 6 人。 松田と雉子琴の溜池築造を再度願い出て許可され、松田に溜池が築造された（藤瀬家文書）。	
1841	天保 12 年	雉子琴に溜池が築造された（藤瀬家文書）	
1842	天保 13 年	村高のうち 30 石余の引高が認められる。	
1846 1850	弘化 3 年 嘉永 3 年	大洪水で田畑が冠水し、流された（藤瀬家文書）。	
1868	慶応 4 年	貢租は 557 石余（うち夫米 23 石余）、真綿銀 30 匁余、鴨運上銀 1 匁余（庄崎家文書）。	
	明治初期	の戸数 119・人口 559（男 275・女 284）、牛 36・馬 18、田 73 町余・畑 15 町余・山林 46 町余、正税は米 521 石余、雑税は米 15 石余と金 68 銭余（地理全誌）。 浄土真宗西本騎寺派金照寺や雉琴神社・天降神社など	

参考文献と石造物奉納の記録から見た雉琴神社の歴史（2）

西 暦	和 暦	奉 納 品 出 来 事 祭 神 等	ベースは角川日本地名大辞典 赤文字は石造物を挿入 文献記録を挿入
			がある（地理全誌）。
1875	明治 8 年		小学校を設立。
1877	明治 10 年		「旧高旧領」の村高は 1,567 石余
1881	明治 14 年		飯原村氏神とする
1882	明治 15 年 8 月	幟立て 2	
1886	明治 19 年 3 月	幟 立 て	日明神社
[近代]	飯原		明治 22 年～現在の大字名。
1889	明治 22 年		長飯本村の大字となる。 戸数 114・人口 578, 地積は田 102 町・畑 22 町・山林 101 町など計 338 町。
1890	明治 23 年		長糸村の大字
1894	明治 27 年 3 月	幟立て 4	石田組産子
1896	明治 26 年 12 月	狛 犬	
1900	明治 33 年 6 月		村社に昇格許可
1900	明治 33 年 10 月	記念碑 4 寄進石 1	村社昇格記念 昇格碑寄附
1906	明治 39 年		幣帛料供進社に指定せれる
1906	明治 39 年 12 月	記念碑 5	凱旋記念
1910	明治 43 年 9 月	幟立て 1	日新會員中
1911	明治 44 年 12 月	一の鳥居	飯原區渡米有志者建之
1914	大正 3 年 4 月	幟立て 1	御旅所
1914	大正 3 年晩秋	標 柱	
1915	大正 4 年 11 月	行 宮	御旅所 御即位記念 日明産子中
1917	大正 6 年 5 月	寄進石 2	籠所寄附
1919	大正 8 年 9 月	標 柱	御旅所
1920	大正 9 年 8 月	鳥 居	御旅所
1921	大正 10 年 9 月	顕 彰 碑	「松田五六郎翁」
1930	昭和 5 年 2 月	標 柱	
1930	昭和 5 年 5 月	常 夜 燈	
1933	昭和 8 年	鳥 居	筒城神社址
1933	昭和 8 年 5 月	史 跡 碑 説 明 板	筒城神社址 神籠石
1933	昭和 8 年 6 月	記 念 碑	筒城神社址 神籠石 長糸村史跡保存會
1955	昭和 30 年		前原町の大字
1982	昭和 57 年		世帯数 94・人口 456
1983	昭和 58 年		県営長野川地区園場整備事業の対象地区となっている。
1986	昭和 61 年 3 月	神 橋	御旅所
1988	昭和 63 年 10 月	社 號 碑	
1990	平成 2 年 11 月	由 緒 盤	

参考文献と石造物奉納の記録から見た雉琴神社の歴史（3）

西 暦	和 暦	奉 納 品 出 来 事 祭 神 等	ベースは角川日本地名大辞典 赤文字は石造物を挿入 文献記録を挿入
1994	平成 6 年 5 月	説 明 板	藤樹の由來說明
1995	平成 7 年 5 月	記念碑 2 記念碑 3	
2000	平成 12 年 9 月	筒城神社が	台風により倒壊し、雉琴神社に合祀する。
2000	平成 12 年 9 月	記念碑 1	筒城神社址
2004	平成 16 年	賽 銭 箱	
2007	平成 19 年 7 月	境内社 2	
2008	平成 20 年 12 月	神 牛 像	

参考文献と石造物奉納の記録から見た雉琴神社の歴史（4）

西 暦	和 暦	奉 納 品 出 来 事 祭 神 等	ベースは角川日本地名大辞典 赤文字は石造物を挿入 文献記録を挿入
		石 段 1	
		記念碑 1	砲弾型石塔
		幟立て 3	嗟蛾里氏子中
		石 段 2	
		燈 籠 1	自然石製
		汐 井 石	
		手 水 鉢	
		手 拭 掛	
		燈 籠 2	
		石 段 3	
		石 段 4	
		石 段 5	
		石 段 6	
		瑞 垣	
		境内社 1	荒神社
		幟立て 2	御旅所
		石 段 1	御旅所
		石 段 2	御旅所
		玉 垣	御旅所
		木 鳥 居	日明神社

『飯原・雉琴神社』

——前原市の神社——

平成25年5月30日

前原市

又木 秀實